

登録コード	UAC72500	開講年度	2026				
授業題目	社会心理学研究Ⅱ				担当教員	松本 昇	
					副担当		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・6時限		
			授業形態	講義			
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				⇔	心理学の各研究分野の知見を統合し、精神病理学研究に活用できるようにする。	
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				⇔	心理学の各研究分野の知見を統合し、精神病理学研究に活用できるようにする。	
	【人間文化学】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				⇔	心理学の各研究分野の知見を統合し、精神病理学研究に活用できるようにする。	
(2)授業の概要	ヒトの認知行動メカニズムに関する精神病理学研究は、精神疾患に対する新たな治療法の開発や既存の治療法の改良につながる。この授業では、気分障害、不安症、統合失調症に関する精神病理学研究を講義と演習の双方の形式で学ぶ。なお、授業内容は進捗をみて一部変更となる場合がある。						
(3)授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 非機能的スキーマ 第3回 信念の形成と更新 第4回 情動処理バイアス 第5回 反すう 第6回 実行機能とワーキングメモリ 第7回 思考抑制と記憶抑制 第8回 恐怖条件づけとエクスポージャー 第9回 自伝的記憶の概括化 第10回 侵入記憶と侵入イメージ 第11回 エピソード的未來思考と自発的認知 第12回 ポジティブ感情 第13回 不安症の共通要因 第14回 内受容感覚 第15回 まとめ、授業アンケートの実施						
(4)成績評価の方法	毎回の授業のコメント（30%）と、期末試験（70%）で評価する。						
(5)成績評価の基準	期末試験の評価にあたっては、授業内で紹介した理論や技法を体系的に理解できているかどうかの評価基準となる。理論や技法を十分に理解し主体的に扱える水準に達していれば「卓越している」、理論や技法を十分に理解し助言を受けながら扱える水準であれば「かなり上にある」、理論や技法を十分に理解していれば「やや上にある」、理論や技法に一定の理解があれば「その水準にある」とみなす。						
(6)事前事後学習の内容	授業内で、論文を多く紹介するので、学びを深めたい受講生は主体的に学習を進めてほしい。 ※この授業は、15時間以上の時間外学習が必要となります。						
(7)履修上の注意	本授業の内容は日常生活における自己や他者への洞察にも繋がる。授業内容を自己や他者にあてはめて考えることは理解を促進すると思われるが、それはあくまでひとつの可能性であって、レッテル貼りにはならないように留意してもらいたい。 授業範囲は広範であるため、日々の学習が必要となる。期末試験前の勉強だけでなく、日頃から予習・復習を心がけること。						
(8)質問,相談への対応	火曜日の昼休みをオフィスアワーとする。それ以外にも、適宜フォームで質問を受け付ける。研究室の場所とメールアドレスは授業内で教示する。						
【教科書】	使用しない。						
【参考書】	使用しない。						